201026021A

厚生労働科学研究費補助金

認知症対策総合研究事業

新しいアッセイ法による認知症治療薬の効果判定

平成２２年度　総括研究報告書

研究代表者　二井　勇人

平成２３(2011)年　４月

厚生労働科学研究費補助金

認知症対策総合研究事業

新しいアッセイ法による認知症治療薬の効果判定

平成２２年度　総括研究報告書

研究代表者　二井　勇人

平成２３(2011)年　４月

目　　次

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）
総括研究報告書

新しいアッセイ法による認知症治療薬の効果判定

総括研究者　　二井勇人　東北大学大学院　農学研究科　准教授

研究要旨

アルツハイマー病の原因となるアミロイドβ蛋白質（Aβ）の生成には、β、γセクレターゼの２つのプロテアーゼが関与する。私たちは、２つのセクレターゼを標的とした治療に向け、精製が困難で酵素機能が明らかになっていなかったヒトγセクレターゼ複合体を酵母において再構成し、試験管内でAβ産生活性を測定した。平成２３年度は、このAβ産生系を用いて金属、pH、脂質等への感受性、複合体内のサブユニット構成による活性の変化など酵素としての基本的な性質を明らかにした。また、フェニルノルスタチン含有ペプチドを用いたβセクレターゼの阻害剤をスクリーニングし、脳内・細胞内への浸透性の向上が期待される薬剤を得ることに成功した。

分担研究者：石浦章一
東京大学大学院・総合文化研究科・教授

A．研究目的

アルツハイマー病は、記憶障害・認知機能低下から患者のQOLを著しく低下させ死に追いやるだけでなく、看護する家族にも非常に大きな負担を強いる。しかしながら、効果的治療法は未だ開発されていない。本研究の目的は、アルツハイマー病の原因となるアミロイドβ蛋白質（Aβ）と呼ばれる42-43アミノ酸からなるペプチドの生成に関与するβ、γセクレターゼの酵素機能を解明し、私たちが明らかにした特徴から新たな治療法を提案することである。

Aβは、アミロイド前駆体蛋白質（APP）のプロテオリシスによって作られるが、これに主に関与するのがβ、γセクレターゼで、これらの阻害がアルツハイマー病征服の一番の標的である。私たちは精製が困難で、その酵素機能が依然として明らかになっていなかったヒトγセクレターゼ複合体を、酵母において再構成することに成功し、試験管内でγセクレターゼ活性を測定できる系を世界で初めて開発した。これによって、γセクレターゼの詳細な酵素学的検討や、γセクレターゼ特異的な阻害剤を探索する事が容易になる。

また、私たちはβセクレターゼ（BACE1）についても、活性化機構の知見を積み重ねて、阻害剤を開発してきた。KMI化合物は、APPのβセクレターゼ切断部位をもとに人工アミノ酸フェニルノルスタチンを配してデザインされたBACE1阻害剤である。分担研究者の石浦の協力のもと、京都薬科大学の木曽良明教授からサンプルをいただき、フェニルノルスタチン化合物の添加による、βセクレターゼ活性の阻害を解析する。

B．研究方法（倫理面の配慮含む）

ヒトγセクレターゼを構成する４つの遺伝子（プレセニリン、ニカストリン、Aph-1、Pen2）とヒトアミロイド前駆体（APP）断片を酵母細胞内に導入し、その膜画分（ミクロソーム）を調製することにより、試験管内でAβを生成する事が可能になった。試験管内での反応条件を様々に変化させ、Aβの生成への影響を解析した。また、γセクレターゼのサブユニットのうち、家族性アルツハイマー病の原因遺伝子であるプレセニリン１とプレセニリン２、また、Aph-1アイソフォーム（Aph-1aとAph1-b）を導入する事により、各サブユニットのプロテアーゼ活性や基質特異性への寄与を解析した。また、家族性アルツハイマー病変異体（プレセニリン１及びプレセニリン2）の活性を測定した。

次に、β切断部位にフェニルノルスタチンを配した種々の新規KMI化合物によるAβ生成阻害活性をBACE1安定発現細胞系を用いてスクリーニングした。

（倫理面への配慮）

ヒトアミロイド前駆体、BACE1、γセクレターゼ

複合体の cDNA は、市販のライブラリーからクローニングしたものであり、家族性アルツハイマー病変異体は PCR 変異導入法により、新しく作製した。特定の相手方の同意・協力・人権及び利害の保護の取り扱いについては全く問題ない。

C．研究結果

γセクレターゼの至適活性条件、基質特異性（APP もしくは Notch の切断）など、酵素としての基本的な性質を解析した。その結果、アルツハイマー病患者脳で減少するリン脂質、プラズマローゲンによって、γセクレターゼが阻害されることがわかった。また、プロリン異性化酵素 Pin1 により、産生 Aβ分子種が変化する（Aβ42 と Aβ43 が増加、Aβ40 が減少。数字はアミノ酸の長さ。）ことを明らかにした。さらに、γセクレターゼ複合体のサブユニットを交換した結果①プレセニリン２は、プレセニリン１と比較して相対的に低い（10 分の 1 程度）Aβ生成活性を有すること、②Aph1 のアイソフォーム間では活性に差が見られないこと、また、③家族性アルツハイマー病の変異体（プレセニリン１、２）を導入したγセクレターゼの Aβ生成活性は野生型に比べて低いものであること、が明らかになった。

新規 KMI 化合物から、βセクレターゼ阻害において、脳内・細胞内への透過性や安定性における改善が期待される非ペプチド性化合物を見出した。

D．考察

アルツハイマー病患者脳においてプラズマローゲンは有意に減少することが報告されている。本研究でγセクレターゼへの阻害活性が確認されたことにより、発症におけるプラズマローゲンの直接的な関与が証明された。また、先行研究でプロリン異性化酵素 Pin1 欠損マウスの脳内ではアミロイド生成が上昇し、アミロイド斑を蓄積することが分かっている。本研究により、Pin1 が Aβの切り分け機構に作用して、毒性の高い Aβ42 や Aβ43 の生成の割合を変化させ、脳内でのアミロイド蓄積に関与していることが示唆された。

家族性アルツハイマー病変異体で Aβ生成活性が減少したのは予想外の結果であったが、総量は減少する一方、毒性の高い Aβ42 や Aβ43 の割合は上昇しており、活性の低下と Aβ切り分け機構との関連が興味深い。

薬物動態に改良を加えたβセクレターゼ阻害薬として、新規 KMI 化合物を同定したことは、γセクレターゼ阻害薬との併用による治療を考える上で、大きな前進である。

E．結論

酵母 Aβ生成系を用いて、酵素学的な性質を解明した。プラズマローゲンやプロリン異性化酵素 Pin1 との関連は、これまでには考えられていなかった全く新しい治療への方向性を生み出した。また、新規 KMI 化合物の同定をうけ、来年度以降γセクレターゼ阻害剤の探索を行い、両者の併用によるモデルマウスの治療実験を行いたい。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

１．論文発表

(1) Yamakawa, H., Yagishita, S., Futai, E. & Ishiura, S. (2010) β-Secretase inhibitor potency is decreased by aberrant β-cleavage location of “Swedish mutant” amyloid precursor protein. J. Biol. Chem. 285, 1634-1642.

(2) Ishii-Katsuno, R., Nakajima, A., Katsuno, T., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Yoshida, T., Watanabe, Y. & Ishiura, S. (2010) Reduction of amyloid beta peptide accumulation in Tg2576 transgenic mice by oral vaccination. Biochem. Biophys. Res. Commun. 399, 593-599.

(3) Nojima, J., Ishii-Katsuno, R., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y., Yoshida, T. & Ishiura, S. (2011) Production of anti-amyloid β antibodies in mice fed rice expressing amyloid β. Biosci. Biotechnol. Biochem. 75, 396-400.

(4) Yoshida, T., Kimura, E., Koike, S., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y. &

Ishiura, S. (2011) Transgenic rice expressing amyloid β-peptide for oral immunization. Int. J. Biol. Sci. 7, 301-307.

(5) Tanabe, C., Hotoda, N., Sasagawa, N., Futai, E., Komano, H. & Ishiura S. (2010) ADAM19 autolysis is activated by LPS and promotes non-classical secretion of cysteine-rich protein 2. Biochem. Biophys. Res. Commun. 396, 927-932.

２．学会発表

(1) 二井勇人、柳下聡一、石浦章一：酵母γセクレターゼ再構成系を用いたpresenilin変異体の解析、酵母遺伝学フォーラム、奈良9.9,2010.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

厚生労働科学研究費補助金（認知症対策総合研究事業）
分担研究報告書

新規BACE1阻害薬開発に関する研究

研究分担者　石浦章一　東京大学大学院　総合文化研究科　教授

研究要旨

アミロイドβ蛋白質（Aβ）生成の第一段階は、アミロイド前駆体蛋白質（APP）がアスパラギン酸プロテアーゼの一種であるβセクレターゼにより切断されることである。BACE1 欠損マウスが正常に発育することが分かったため、BACE1 特異的な阻害薬はアルツハイマー病の有力な治療薬として期待される。私たちは、APP のβセクレターゼ切断部位をもとに、人工アミノ酸フェニルノルスタチンを配してデザインした BACE1 阻害剤 KMI 化合物を開発してきた。KMI 化合物の酵素阻害活性は高いものの、ペプチド類似構造を持つため、動物での阻害活性発現には、血液脳関門や細胞の透過性に課題がある。本研究では、京都薬科大学木曽良明教授より分与された、新規 KMI 化合物をスクリーニングし、細胞透過性や安定性において改善が期待される BACE1 阻害剤を得ることに成功した。

A．研究目的

アルツハイマー病は、脳内でのアミロイド斑の沈着によって起きると考えられるが、その第一段階は、アミロイド前駆体蛋白質（APP）がアスパラギン酸プロテアーゼの一種であるβセクレターゼにより切断され、アミロイドβ蛋白質（Aβ）となる断片を生じることである。BACE1欠損マウスが正常に発育することが分かったため、BACE1特異的な阻害薬はアルツハイマー病の有力な治療薬として期待されている。現在までに多数のペプチド構造を持つ阻害剤が合成されているが、それらの酵素阻害活性は高いものの、動物での阻害活性発現には、血液脳関門の透過性などの課題が多い。本研究では、細胞内・脳内への透過性を改善するために、新たに薬剤をデザインした。京都薬科大学木曽良明教授より分与された、新規BACE1阻害剤KMI化合物をスクリーニングし、BACE1安定発現細胞系、Tg2576マウスをもちいて、活性を評価することを目的とした。

B．研究方法（倫理面の配慮含む）

ヒト BACE1 を安定に発現させた HEK293 細胞に各 KMI 化合物を添加し、6 時間培養後培地を回収した。APP が BACE1 で切断されて培地に分泌される sAPPβ を、その切断部位を認識する抗体を用いてウェスタンブロッティングにより検出し、βセクレターゼ活性を算出した。

（倫理面への配慮）

ヒト BACE1 の cDNA、HEK293 細胞は、市販のものを入手したもので、特定の相手方の同意・協力・人権及び利害の保護の取り扱いについては全く問題ない。

C．研究結果

添加濃度 100μM でのスクリーニングの結果、ペプチド類似構造の化合物 KMI-714、-725 において、20%以下の強い阻害活性が認められた。また低濃度（30μM）での解析の結果、50%以下の阻害活性を示し従来の化合物に準ずる活性を有する KMI-714、-725、-1027、-1036 を見出した。また、細胞への透過性を考えてデザインされた非ペプチド構造の化合物（KMI-1023、-1027、-1030、-1036）では、試験管内での酵素阻害活性の強度にほぼ相関して培養細胞系での阻害活性が出ることが分かった。

D．考察

KMI 化合物は、APP のβセクレターゼ切断部位をもとに人工アミノ酸フェニルノルスタチンを配してデザインされた BACE1 阻害剤である。P4 位の酸性残基は BACE1 阻害に重要で、従来高い阻害効果が見られていた KMI429 ではテトラゾール誘導体、KMI-574 ではフッ素分子を含むウレイド誘導体残基

を配することによって、水素結合のアクセプター強度を増した結果、阻害活性が上昇した。今回のKMI-714、-725においても、P4位のウレイド誘導体残基が、高い阻害活性につながったと考えられる。また、KMI-725では、P2位を人工アミノ酸Cha（L-cyclohexylalanine）に置換しており、細胞内での化学安定性が改善することが期待される。

また、血液脳関門の透過性など、薬物動態において優れていると期待される非ペプチド構造のKMI-1027、-1036については、先行研究に準ずる阻害活性が認められ、動物実験では、強い阻害活性を示す可能性がある。さらに、今回デザインした非ペプチド構造の化合物では、精製酵素への阻害活性として得られたIC50値と細胞系での結果に相関が見られ、細胞膜の透過性は同程度であると考えられる。

E．結論

細胞内での安定性、細胞や血液脳関門への透過性などに改善が期待される阻害剤の取得に成功した。今後、活性阻害の特異性や、動物実験での活性を調べる必要がある。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1．論文発表

(1) Yamakawa, H., Yagishita, S., Futai, E. & Ishiura, S. (2010) β-Secretase inhibitor potency is decreased by aberrant β-cleavage location of "Swedish mutant" amyloid precursor protein. J. Biol. Chem. 285, 1634-1642.

(2) Ishii-Katsuno, R., Nakajima, A., Katsuno, T., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Yoshida, T., Watanabe, Y. & Ishiura, S. (2010) Reduction of amyloid beta peptide accumulation in Tg2576 transgenic mice by oral vaccination. Biochem. Biophys. Res. Commun. 399, 593-599.

(3) Nojima, J., Ishii-Katsuno, R., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y., Yoshida, T. & Ishiura, S. (2011) Production of anti-amyloid β antibodies in mice fed rice expressing amyloid β. Biosci. Biotechnol. Biochem. 75, 396-400.

(4) Yoshida, T., Kimura, E., Koike, S., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y. & Ishiura, S. (2011) Transgenic rice expressing amyloid β-peptide for oral immunization. Int. J. Biol. Sci. 7, 301-307.

(5) Tanabe, C., Hotoda, N., Sasagawa, N., Futai, E., Komano, H. & Ishiura S. (2010) ADAM19 autolysis is activated by LPS and promotes non-classical secretion of cysteine-rich protein 2. Biochem. Biophys. Res. Commun. 396, 927-932.

(6) Asai, M., Iwata, N., Tomita, T., Iwatsubo, T., Ishiura, S., Saido, T.C. & Maruyama, K. (2010) Efficient four-drug cocktail therapy targeting amyloid-β peptide for Alzheimer's disease. J. Neurosci. Res. 88, 3588-3597.

2．学会発表

(1) 湯浅友貴、二井勇人、木曽良明、石浦章一：アルツハイマー病治療のための新規BACE1阻害剤の開発、日本病態プロテアーゼ学会、大阪 8.20,2010（学会奨励賞受賞）.

H．知的財産権の出願・登録状況

なし

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Yamakawa, H., Yagishita, S., Futai, E. & Ishiura, S.	β-Secretase inhibitor potency is decreased by aberrant β-cleavage location of "Swedish mutant" amyloid precursor protein.	J. Biol. Chem.	285	1634-1642	2010
Ishii-Katsuno, R., Nakajima, A., Katsuno, T., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Yoshida, T., Watanabe, Y. & Ishiura, S.	Reduction of amyloid beta peptide accumulation in Tg2576 transgenic mice by oral vaccination.	Biochem. Biophys. Res. Commun.	399	593-599	2010
Nojima, J., Ishii-Katsuno, R., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y., Yoshida, T. & Ishiura, S.	Production of anti-amyloid β antibodies in mice fed rice expressing amyloid β.	Biosci. Biotechnol. Biochem.	75	396-400	2011
Yoshida, T., Kimura, E., Koike, S., Nojima, J., Futai, E., Sasagawa, N., Watanabe, Y. & Ishiura, S.	Transgenic rice expressing amyloid β-peptide for oral immunization.	Int. J. Biol. Sci.	7	301-307	2011
Tanabe, C., Hotoda, N., Sasagawa, N., Futai, E., Komano, H. & Ishiura S.	ADAM19 autolysis is activated by LPS and promotes non-classical secretion of cysteine-rich protein 2.	Biochem. Biophys. Res. Commun.	396	927-932	2010
Asai, M., Iwata, N., Tomita, T., Iwatsubo, T., Ishiura, S., Saido, T.C. & Maruyama, K.	Efficient four-drug cocktail therapy targeting amyloid- β peptide for Alzheimer's disease.	J. Neurosci. Res.	88	3588-3597	2010

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
二井勇人、石浦章一	膜結合型メタロプロテアーゼ（MMP, ADAM）ファミリー	脳２１	13	33-38	2010

Ⅳ．研究成果の刊行物・別刷

THE JOURNAL OF BIOLOGICAL CHEMISTRY VOL. 285, NO. 3, pp. 1634–1642, January 15, 2010
© 2010 by The American Society for Biochemistry and Molecular Biology, Inc. Printed in the U.S.A.

β-Secretase Inhibitor Potency Is Decreased by Aberrant β-Cleavage Location of the "Swedish Mutant" Amyloid Precursor Protein

Received for publication, September 21, 2009, and in revised form, November 16, 2009 Published, JBC Papers in Press, November 19, 2009, DOI 10.1074/jbc.M109.066753

Hidekuni Yamakawa, Sosuke Yagishita, Eugene Futai, and Shoichi Ishiura[1]

From the Department of Life Sciences, Graduate School of Arts and Sciences, University of Tokyo, Meguro-ku, Tokyo 153-8902, Japan

The amyloid-β (Aβ) peptide, widely known as the causative molecule of Alzheimer disease (AD), is generated by the sequential cleavage of amyloid precursor protein (APP) by the aspartyl proteases BACE1/β-secretase and presenilin/γ-secretase. Inhibition of BACE1, therefore, is a promising strategy for preventing the progression of AD. However, β-secretase inhibitors (BSIs) exhibit unexpectedly low potency in cells expressing "Swedish mutant" APP (APPswe) and in the transgenic mouse Tg2576, an AD model overexpressing APPswe. The Swedish mutation dramatically accelerates β-cleavage of APP and hence the generation of Aβ; this acceleration has been assumed to underlie the poor inhibitory activity of BSI against APPswe processing. Here, we studied the mechanism by which the Swedish mutation causes this BSI potency decrease. Surprisingly, decreased BSI potency was not observed in an *in vitro* assay using purified BACE1 and substrates, indicating that the accelerated β-cleavage resulting from the Swedish mutation is not its underlying cause. By focusing on differences between the cell-based and *in vitro* assays, we have demonstrated here that the potency decrease is caused by the aberrant subcellular localization of APPswe processing and not by accelerated β-cleavage or the accumulation of the C-terminal fragment of β-cleaved APP. Because most patients with sporadic AD express wild type APP, our findings suggest that the wild type mouse is superior to the Tg2576 mouse as a model for determining the effective dose of BSI for AD patients. This work provides novel insights into the potency decrease of BSI and valuable suggestions for its development as a disease-modifying agent.

Alzheimer disease (AD)[2] is the most common type of dementia associated with neurodegeneration. Amyloid β (Aβ) peptides accumulate in the brains of AD patients and are deposited as insoluble plaques, the hallmarks of AD pathophysiology (1). Aβ is produced by sequential cleavage of amyloid precursor protein (APP) by the aspartyl proteases BACE1/β-secretase and presenilin/γ-secretase. Growing evidence indicates that the acceleration of Aβ generation can trigger the cognitive dysfunction characteristic of AD (2–4). In fact, many risk factors for AD, including higher levels of β-secretase and γ-secretase expression, oxidative stress, and insulin dysfunction, promote the generation of Aβ (5–11). Therefore, the inhibition of Aβ production is one of the most promising therapeutic approaches for preventing the progression of AD (12–16).

BACE1/β-secretase inhibitors (BSIs) have been investigated as AD-modifying agents since the gene encoding the BACE1 enzyme was cloned in 1999 (17, 18). BACE1-deficient mice are viable, and the dramatic decrease in Aβ levels caused by the genetic deletion of BACE1 in AD model mice can ameliorate AD phenotypes such as memory impairment (19–21). However, BSI is less able to reduce Aβ in an AD model mouse (Tg2576) than in wild type mice (22–24), raising doubts about the potential clinically effective dose of BSI and thus raising concerns about the safety of the treatment and its cost in clinical trials.

Tg2576 is a transgenic mouse expressing "Swedish mutant" APP (APPswe) (25). This two-amino acid mutation, which was discovered in Swedish familial AD patients (26), dramatically accelerates β-site processing of APP. Therefore, the weakening of BSI potency in the Tg2576 mouse appears to be attributable to the Swedish mutation. Several reports have shown that BSIs are less potent against Aβ generation in cells stably transfected with the APPswe variant than in those transfected with wild type APP (APPwt) (22–24, 27), but the mechanism underlying this reduction in BSI inhibitory activity has not yet been elucidated. If the poor potency of BSIs in Tg2576 mice arises from differences between AD and non-AD that are unrelated to the Swedish mutation, then a high dose of BSI would be required to effectively prevent AD progression in both sporadic and Swedish type AD. Therefore, to accurately predict the clinically effective dose of BSI, we must elucidate the mechanism by which the Swedish mutation affects BSI potency.

In this study, *in vitro* BSI assays using purified BACE1 and substrate peptides showed that, in contrast to previous results from cell-based assays, BSI is as potent a cleavage inhibitor for APPswe as it is for APPwt. This finding suggests that differences between the cell-based and *in vitro* enzymatic assays might underlie the apparent effect of the Swedish mutation on BSI potency. Our analysis of these differences demonstrates that the potency decrease is caused by the aberrant subcellular localization of APPswe processing and not by accelerated β-cleavage or by the accumulation of the C-terminal fragment

[1] To whom correspondence should be addressed: 3-8-1 Komaba, Meguro-ku, Tokyo 153-8902, Japan. Tel. and Fax: 81-3-5454-6739; E-mail: cishiura@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp.

[2] The abbreviations used are: AD, Alzheimer disease; APP, amyloid precursor protein; BSI, β-secretase inhibitor; βCTF, C-terminal fragment of β-cleaved APP; TBS, Tris-buffered saline; wt, wild type; Swe, Swedish type; SHwt, SH-SY5Y stably expressing APPwt; SHswe, SH-SY5Y stably expressing APPswe; Aβ, amyloid β; DMSO, dimethyl sulfoxide; BSA, bovine serum albumin; ELISA, enzyme-linked immunosorbent assay; HBSS, Hanks' balanced salt solution; PBS, phosphate-buffered saline; MES, 4-morpholineethanesulfonic acid.

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

of β-cleaved APP (βCTF). Our findings suggest that the abnormal subcellular site of APPswe processing is responsible for the weakened inhibitory activity of BSIs against Aβ production in APPswe-expressing cells.

EXPERIMENTAL PROCEDURES

In Vitro BACE1 Activity Assay—In vitro BACE1 activity assays were performed using substrate peptides from the American Peptide Company, Inc. (Sunnyvale, CA), recombinant human BACE1 from R & D Systems (Minneapolis, MN), and BSI OM99–2 (28) or β-secretase Inhibitor IV from Calbiochem (29). The substrate peptide sequences were SEVKMDAEFRHDSGYEK-biotin (wild type; wt) and SEVNLDAEFRHDSGYEK-biotin (Swedish; swe). Peptides and inhibitors were dissolved in dimethyl sulfoxide (DMSO), and dissolved peptides were stored at −20 °C.

The standard reaction buffer was 50 mM sodium acetate, pH 4.5, containing 0.25 mg/ml bovine serum albumin (BSA). In experiments to check the pH dependence of IC_{50} values, citrate-phosphate buffer was used because of its broad buffering range. The reactions were carried by mixing 89 μl of substrate solution, 1 μl of inhibitor solution or DMSO, and 10 μl of BACE1 in each well of a 96-well plate and incubating the plate under the conditions described in Fig. 1 and Table 1. The reactions were terminated by the addition of 30 μl of 1 M Tris-HCl, pH 7.6.

Enzyme-linked immunosorbent assays (ELISAs) were used to measure the products of BACE1 enzymatic cleavage. The reaction mixtures were appropriately diluted in Tris-buffered saline (TBS) containing 0.1% Tween 20 (TBST) and 1% BSA and transferred to a detection plate coated with a monoclonal antibody specific for the N-terminal end generated by BACE1 cleavage (82E1; IBL Co., Ltd., Gunma, Japan). The plate was incubated overnight at 4 °C and then washed five times with TBST. Neutravidin-horseradish peroxidase (Thermo Scientific, Inc., Rockford, IL) was diluted 1:10,000 in sample dilution buffer, and 100 μl of this diluted solution was added to each well. The plate was incubated for 1 h at room temperature, washed five times with TBST, and developed using SuperSignal ELISA Pico chemiluminescent substrate (Thermo Scientific, Inc.). Luminescence counts were measured using an ARVO MX plate reader (PerkinElmer Life Sciences).

Cell-based Aβ Production Activity Assay—SH-SY5Y human neuroblastoma cells stably transfected with APP isoform 695 (APP695) were maintained in Dulbecco's modified Eagle's medium containing 10% heat-inactivated fetal bovine serum (4.5 g/liter) and 100 μg/ml hygromycin B. Cells transfected with wild type or Swedish mutant APP695 (APPwt or APPswe, respectively) were designated SHwt cells and SHswe cells, respectively. For inhibitor treatments, the cells were seeded in 96-well plates at a density of 8×10^5 cells/ml (150 μl of growth medium/well), incubated for 2 h, and then treated with 2 μl of inhibitor diluted in DMSO. The final DMSO concentration was 1%. The cells were then incubated for 24 h at 37 °C in a humidified 5% CO_2 atmosphere. To measure secreted Aβ, the conditioned medium was transferred to a 96-well plate, which was stored at 4 °C until use.

For quantification of βCTF, treated cells were lysed in TBS containing Complete protease inhibitor mixture (Roche Applied Science) and 1% Triton X-100 for 2 h at 4 °C. The amount of βCTF in the lysate was determined using a βCTF ELISA.

Cell Surface Biotinylation—Five milliliters of SHwt or SHswe cells were seeded into 6-cm dishes (2×10^6 cells/dish). After 24 h, the cells were washed three times with Hanks' balanced salt solution (HBSS) and then biotinylated with Sulfo-NHS-LC-Biotin (0.5 mg/ml; Thermo Scientific, Inc.) in cold HBSS for 1 h at 4 °C. The cultures were washed with 100 mM glycine in cold HBSS and rinsed twice with cold HBSS. The cells were harvested in cold phosphate-buffered saline (PBS) and collected by centrifugation. Cell pellets were suspended in PBS containing 1% Nonidet P-40 and Complete protease inhibitor mixture (Roche Applied Science), sonicated, and centrifuged at 16,000 × *g* for 10 min. The protein concentrations of the supernatant fractions were determined using a BCA assay kit (Thermo Scientific, Inc.) and normalized to the controls.

The normalized SHwt and SHswe cell lysates were incubated with streptavidin beads (Thermo Scientific, Inc.) overnight. The biotinylated molecules were eluted by heating at 95 °C for 10 min in LDS sample buffer (Invitrogen). The eluates were analyzed by Western blotting using anti-APP antibody 6E10 (Covance, Princeton, NJ).

Immunofluorescence and Image Acquisition—SHwt or SHswe cells cultured on plastic discs in 24-well plates were rinsed with HBSS, incubated with antibody 6E10 (1:200) to label APP on the cell surface, and washed three times with cold HBSS. Either immediately thereafter or after a 15-min incubation at 37 °C to allow endocytosis to occur, the cells were fixed for 15 min at room temperature in 4% paraformaldehyde. The fixed cells were permeabilized, blocked with PBS containing 0.1% Triton X-100 and 3% normal goat serum for 15 min, and incubated with a rabbit polyclonal antibody specific for the C-terminal region of APP (AB5352; Millipore, Billerica, MA) overnight at 4 °C. The primary antibodies were labeled with secondary antibodies conjugated to Alexa Fluor 488 (for AB5352) or 594 (for 6E10) (Invitrogen). The images were acquired using an Eclipse FN1 microscope (Nikon, Tokyo, Japan) equipped with a 40× objective. Exposure time and gain remained constant for all of the images.

Cell-free β-Secretase Assay—SHwt and SHswe cell lysates were assayed for β-secretase in a cell-free system. First, SHwt and SHswe cells were cultured in 150-mm dishes, washed with PBS, suspended with trypsin-EDTA, diluted with growth medium, and centrifuged. The resulting cell pellets were washed twice with PBS and quickly frozen in liquid N_2. Frozen cells were homogenized in a buffer containing 50 mM MES, pH 5.5, Complete protease inhibitor mixture (Roche Applied Science), the aspartic protease inhibitor pepstatin A (10 μM; Roche Applied Science), and the γ-secretase inhibitor *N*-[*N*-(3,5-difluorophenacetyl-L-alanyl)]-*S*-phenylglycine *t*-butyl ester (10 μM; Calbiochem) using 30 strokes of a tight fitting Dounce homogenizer. The lysis buffer was detergent-free to avoid disruption of the conformation of the APP substrate and BACE1 enzyme.

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

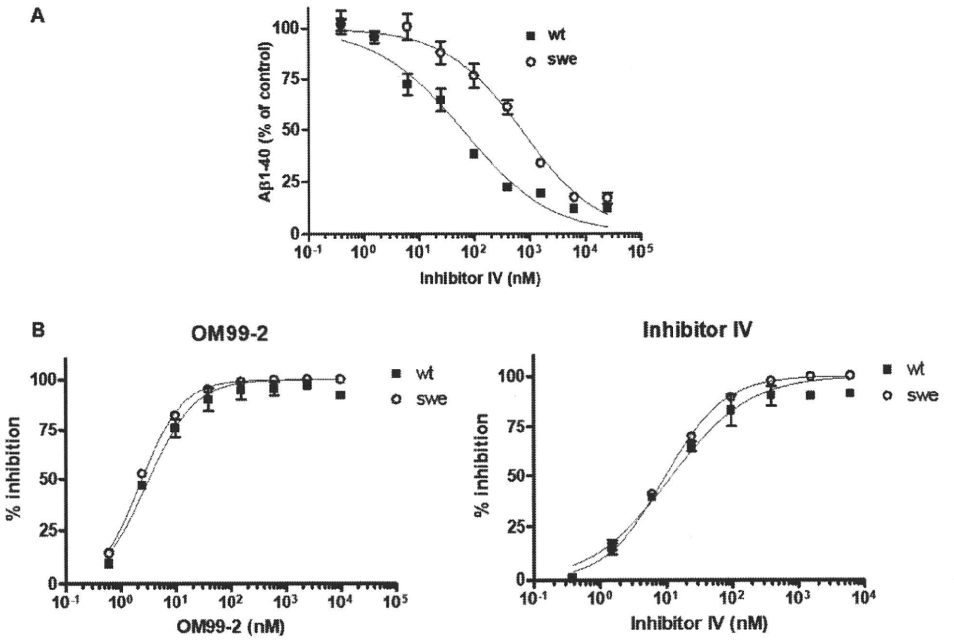


FIGURE 1. **The β-cleavage of wild type and "Swedish mutant" APP substrates is inhibited with equal efficiency by BSIs in an *in vitro* BACE1 activity assay.** *A*, SH-SY5Y cells stably transfected with wild type APP (APPwt; ■) or "Swedish mutant" APP (APPswe; ○) were treated with Inhibitor IV at the indicated concentrations for 24 h, and the conditioned medium was analyzed for the amount of $A\beta_{1-40}$ as described under "Experimental Procedures." $A\beta_{1-40}$ quantification data are expressed relative to those for DMSO-treated control cultures (defined as 100%). The IC_{50} values for APPwt and APPswe are 61 and 694 nM, respectively. *B*, an *in vitro* BACE1 assay was performed using 0.45 nM purified human BACE1, 4 μM substrate peptide (a greater than 100-fold excess of substrate), and the indicated concentrations of BSI OM99-2 or Inhibitor IV. The inhibition data are expressed relative to control reaction mixtures lacking BACE1 enzyme (defined as 100%). However, 0% inhibition is defined as that obtained for a control solution treated with DMSO (no inhibitor).

TABLE 1

Summary of IC_{50} values for BSIs in an in vitro BACE1 assay under various conditions

Parameter	IC_{50} ± S.D.		IC_{50} ratio (swe:wt)
	Wt	Swe	
	nm		
β-Secretase inhibitor compound			
OM99-2	3.3 ± 0.3	2.4 ± 0.1	0.7
Inhibitor IV	12.4 ± 2.3	9.8 ± 0.9	0.8
Reaction time[a]			
3 h	3.5 ± 0.5	4.1 ± 1.0	1.2
6 h	5.4 ± 1.9	8.2 ± 1.4	1.5
24 h	6.0 ± 1.1	9.4 ± 0.5	1.5
Substrate/enzyme ratio[a]			
200:1	19 ± 2	23 ± 6	1.2
50:4	21 ± 3	28 ± 6	1.3
25:8	24 ± 5	32 ± 6	1.4
16:16	26 ± 6	46 ± 10	1.7
pH[a]			
4.6	5.6 ± 1.0	5.0 ± 1.1	0.9
6.2	5.6 ± 0.4	4.6 ± 1.7	0.8

[a] These experiments were performed using Inhibitor IV.

The cell lysates were mixed in 96-well plates with reaction buffer containing various concentrations of Inhibitor IV and incubated for 1 h at 25 °C with shaking. The reactions were terminated by the addition of 1 M Tris-HCl, pH 7.6, containing 3% Triton X-100 and 50 μM Inhibitor IV. Solubilized βCTF was quantified using an ELISA.

Quantification of $A\beta_{1-40}$, $A\beta_{1-x}$, and βCTF—An $A\beta_{1-40}$ homogenous time resolved fluoresence kit was purchased from Nihon Schering (Osaka, Japan). Briefly, antibody-EuK (55 ng/ml), antibody-XL665 (400 ng/ml), and phosphate buffer (50 mM; pH 7.4) containing 0.2% BSA and 0.5 M KF were added into each well of a 384-well plate. Samples of conditioned cell culture medium or synthetic peptide standards were added to yield a total assay volume of 20 μl/well. After mixing, the reaction mixture was incubated at 4 °C to reach equilibrium binding and then read on an ARVO multilabel counter (PerkinElmer Life Sciences).

An $A\beta_{1-x}$ ELISA was established using the commercially available antibodies 82E1 (IBL Co., Ltd.) and 4G8 (Covance). First, a Maxisorp plate (Nunc, Rochester, NY) was coated with 82E1 (0.5 μg/ml) in 50 mM Tris-HCl, pH 8, overnight at 4 °C and then blocked with TBST containing 0.5% BSA. Next, conditioned medium was appropriately diluted with sample dilution buffer (TBST containing 1% BSA), added to the 82E1-coated wells, and incubated overnight at 4 °C. After four washes, horseradish peroxidase-conjugated 4G8 (0.05 μg/ml in sample dilution buffer) was added, and the mixture was incubated for 1 h at room temperature. The peptides sandwiched with both 82E1 and 4G8 were quantified as luminescence counts (see "*In Vitro* BACE1 Activity Assay"). βCTF was quantified using a βCTF ELISA kit (IBL Co., Ltd.) according to the manufacturer's protocol.

Data Analysis—GraphPad Prism (GraphPad Software, Inc., San Diego, CA) was used to graph and analyze data. All of the titration curves were fitted to a sigmoidal dose-response equation to determine the IC_{50} values of the tested compounds.

RESULTS

BSIs Are Equally Potent Inhibitors of BACE1 Cleavage of APPwt and APPswe in Vitro—It has been widely observed that, in cells, BSIs are much less effective inhibitors of β-cleavage of APPswe than of β-cleavage of APPwt (22–24, 27). In the present study, we assessed the relative effectiveness of Inhibitor IV at reducing the production of Aβ in SH-SY5Y cells stably expressing APPwt *versus* APPswe. As shown in Fig. 1*A*, Inhibitor IV was about 10-fold less potent against β-cleavage of APPswe in SH-SY5Y cells than against the β-cleavage of APPwt reported previously.

The Swedish mutation dramatically accelerates β-cleavage of APP in both *in vitro* enzymatic assays and in cell-based assays. Therefore, we investigated whether it would cause a similar decrease in BSI potency *in vitro* using purified BACE1 and substrate peptides. The IC_{50} values of inhibitors of BACE1 activity are summarized in Table 1. The representative BACE1 inhibitors OM99-2 and Inhibitor IV were

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

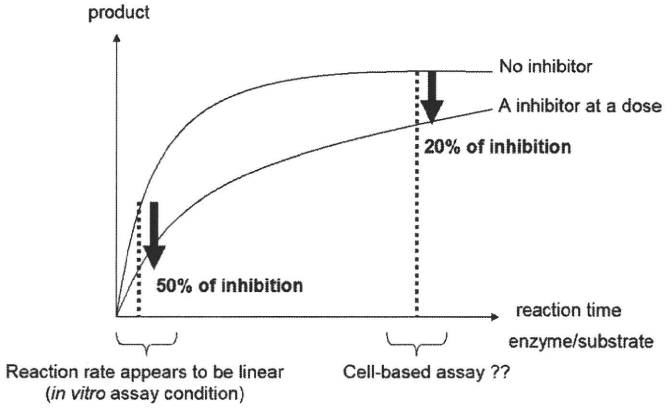


FIGURE 2. **Schematic model of the "saturation hypothesis."** In this hypothetical scheme, inhibitors are less powerful under product-saturated conditions arising from lengthy reaction times or an excessively high enzyme: substrate ratio.

equally potent inhibitors of cleavage of the wild type and Swedish type substrates.

The APPswe-induced Decrease in BSI Potency Observed in Cells Does Not Occur in Vitro under Various Cell-like Conditions—The discrepancy between *in vitro* and cell-based assay data suggests that the decreased potency of BSI in cells expressing APPswe might result from differences between the two assays. Not only do the assays differ in reaction conditions, such as the enzyme: substrate ratio, reaction time, and pH, but they also differ in that βCTF accumulates in cells expressing APPswe and in the subcellular compartmentalization of the β-cleavage reaction.

We first examined the influence of reaction conditions on the IC_{50} value of BSI. Generally, an enzymatic reaction proceeds linearly during the early phase and then reaches a plateau; the percentage of inhibition generally appears to be lower at the plateau than in the early phase (Fig. 2). Because cell-based assays usually use longer reaction times than those *in vitro*, the BACE1 cleavage reaction might be saturated under cell-based assay conditions. In addition, because the k_{cat}/K_m of APPswe is much higher than that of APPwt, the β-cleavage reaction may reach a plateau much earlier for APPswe than for APPwt. We speculated that in cells, the saturation of BACE1 cleavage of APPswe might decrease the potency of BSI. Therefore, we performed *in vitro* BACE1 activity assays for various lengths of time and compared the resulting IC_{50} values for the processing of the Swedish and wild type peptides. Unexpectedly, the ratio of IC_{50} values for APPswe and APPwt (IC_{50} swe:wt) did not increase with longer reaction times (Table 1). Even after 24 h, the IC_{50} value of swe:wt was much less than 10, and it was the same as that in the cell-based assay.

Next, to examine the saturation hypothesis (see the schematic in Fig. 2), we incubated BACE1:substrate mixtures of various ratios for 24 h to bring the reactions closer to plateau. Even when BACE1 and its substrate were present in equal amounts, IC_{50} swe:wt was still much less than 10 (Table 1), which is inconsistent with the saturation hypothesis.

We next examined whether pH conditions might affect BSI potency. Although APP was previously thought to be cleaved by BACE1 in acidic cell compartments of pH 4.5, the optimal pH for BACE1, β-cleavage of APP occurs in early endosomes with a

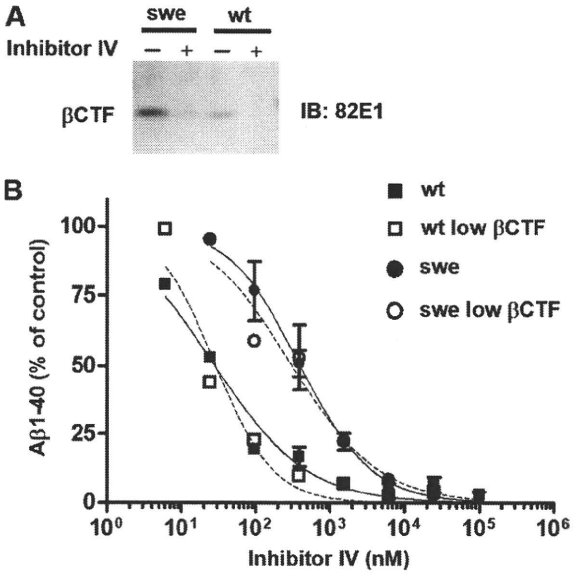


FIGURE 3. **βCTF accumulation is not the cause of the Swedish mutation-linked reduction in BSI Aβ-reducing potency in APPswe-expressing SH-SY5Y cells.** *A*, Western blot demonstrating robust accumulation of C-terminal fragments of β-cleaved APP (βCTF) in SH-SY5Y cells stably transfected with APPswe (SHswe cells) but not in SH-SY5Y cells stably expressing APPwt (SHwt cells). Pretreatment with Inhibitor IV (25 μM) for 24 h reduced the level of βCTF in pretreated SHswe cells to a level below that in SHwt cells pretreated with DMSO. *B*, SHwt and SHswe cells pretreated with Inhibitor IV or DMSO were treated again with Inhibitor IV at the indicated concentrations for 24 h, and the amount of $Aβ_{1-40}$ in the conditioned medium was measured as described under "Experimental Procedures." The data for $Aβ_{1-40}$ levels in the culture medium are expressed relative to the data for medium from DMSO-treated control cultures (defined as 100%). The IC_{50} values with and without pretreatment were as follows: SHwt, 28 nM; pretreated SHwt (low βCTF), 29 nM; SHswe, 400 nM; pretreated SHswe (low βCTF), 311 nM. *IB*, immunoblot.

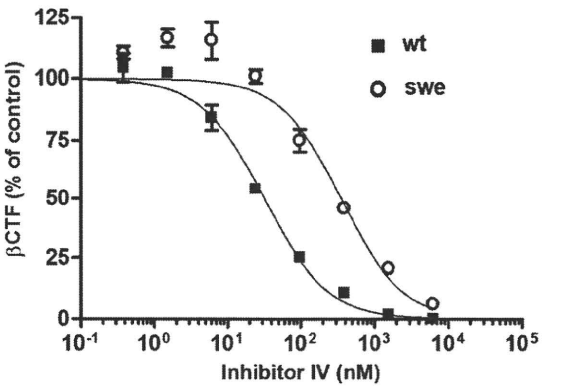


FIGURE 4. **BSI inhibits the generation of βCTF in SH-SY5Y cells stably expressing Swedish type APP (SHswe) less potently than in SH-SY5Y cells stably expressing wild type APP (SHwt).** SHwt and SHswe cells were treated with Inhibitor IV at the indicated concentrations for 24 h and then lysed in Tris-buffered saline containing 1% Triton X-100. The amount of βCTF in the cell lysate was measured using a βCTF enzyme-linked immunosorbent assay kit (ELISA). The βCTF quantification data are expressed relative to those for the DMSO-treated control cultures (defined as 100%). The IC_{50} values in SHwt and SHswe cells are 32 and 356 nM, respectively.

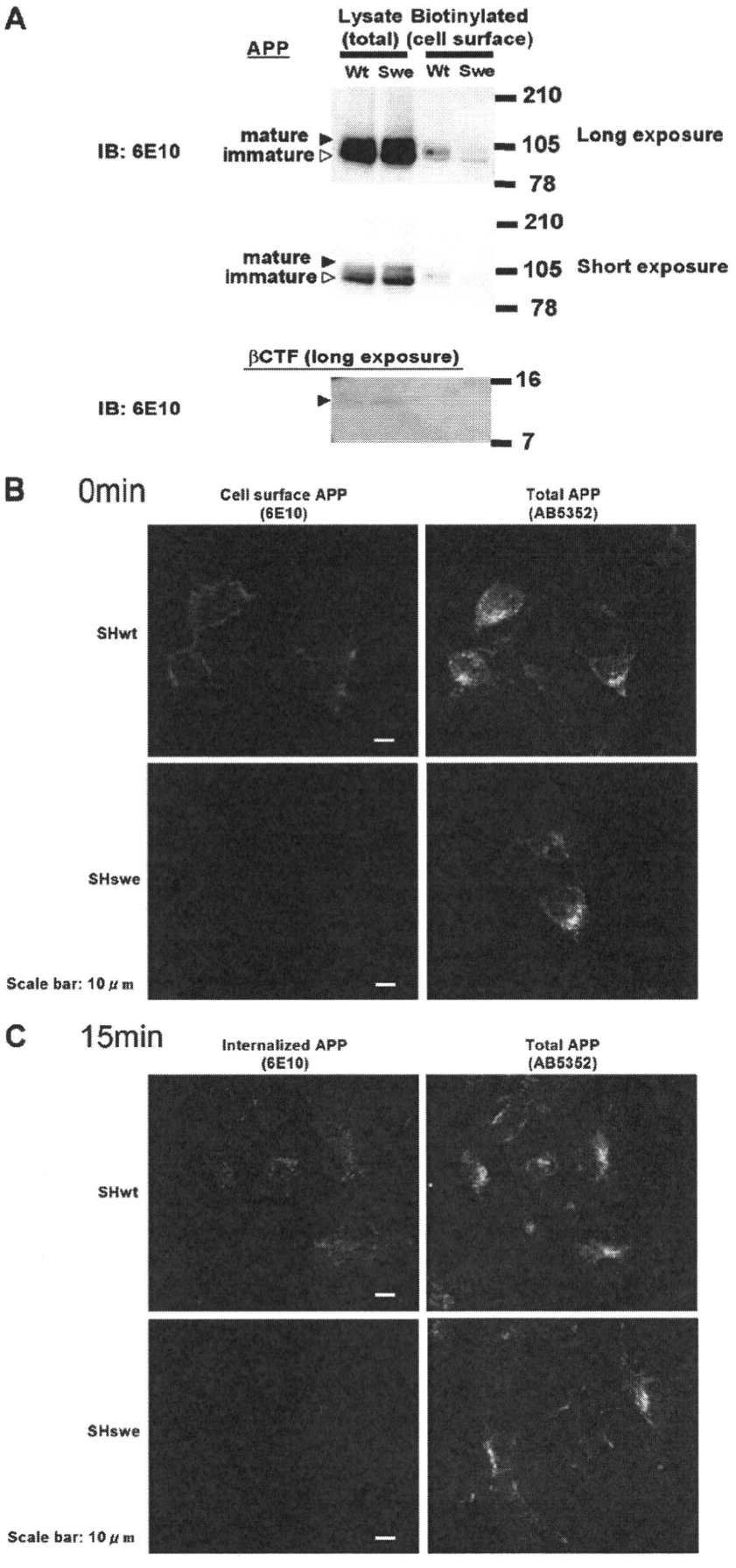
pH of ~6 (30). We therefore examined whether the presence of a higher pH in the cellular compartments in which β-cleavage occurs might explain the decreased potency. We measured BACE1 activities at pH 4.5 and 6.2 and plotted the percentage of inhibition at each dose of Inhibitor IV (Table 1). Both the IC_{50} value and IC_{50} swe:wt remained unaffected by pH, indicating that the Swedish mutation-linked BSI potency decrease is not

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

caused by a higher pH in the cellular compartment in which β-cleavage of APP occurs.

βCTF Accumulation Is Not Involved in the BSI Potency Decrease—βCTF has been reported to accumulate robustly in cells stably expressing APPswe (22, 31), suggesting that the inhibition of βCTF production by BSI may not lower the amount of Aβ secreted from SHswe cells. Specifically, the βCTF that accumulates in SHswe cells can be cleaved by γ-secretase to release Aβ into the medium, which might then lead to the BSI potency decrease. In this case, inhibiting the accumulation of βCTF before assaying the BSI assay would abolish the apparent potency decrease. To examine this possibility, we performed cell-based assays with Inhibitor IV pretreatment to prevent the accumulation of βCTF. After 24 h of pretreatment (Fig. 3*A*), we exposed SHwt and SHswe cells to a range of Inhibitor IV concentrations and quantified the $A\beta_{1-40}$ secreted into the media. As shown in Fig. 3, the IC_{50} values for SHswe cells were about 10 times higher than those for SHwt cells, regardless of pretreatment conditions, indicating that βCTF accumulation in SHswe cells is not the cause of the reduced potency of BSI.

The Swedish Mutation Decreases BSI Potency against βCTF Production in a Cell-based Assay—To confirm that the reduced effectiveness of BSIs against APPswe processing is independent of βCTF accumulation, we investigated whether Inhibitor IV equally prevents βCTF generation in SHwt and SHswe cells. βCTF was quantified using a βCTF ELISA kit after the cells were exposed to various Inhibitor IV concentrations for 24 h. As shown in Fig. 4, Inhibitor IV exhibited the usual decrease in inhibitory activity in these experiments. In addition, the IC_{50} values for βCTF production were comparable with those for Aβ production. These data suggest that no association exists between the accumulation of βCTF and the decreased effectiveness of BSI.



Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

The Swedish Type APP Was Not Exposed to the Plasma Membrane, whereas Wild Type Was—The aberrant subcellular localization of APPswe processing by BACE1 has been reported by several groups (31, 34, 35, 40) with the specific consensus that although APPwt is cleaved by BACE1 in the early endosomes, the β-cleavage of APPswe occurs primarily within the secretory pathway. However, few studies have directly compared the localization of BACE1 processing for APPwt *versus* APPswe, particularly in human neuronal cells. Therefore, to confirm that the subcellular localization of APP processing by BACE1 is altered by the Swedish mutation, we compared the amounts of APPwt and APPswe reaching the plasma membrane without first undergoing β-cleavage in the secretory vesicles.

First, we labeled cell surface APP with biotin, precipitated the biotin-labeled APP using streptavidin beads, and quantified the biotin-labeled and total APP by Western blotting. As shown in Fig. 5*A*, the level of total APP in SHswe cells was similar to or higher than that in SHwt cells. In contrast, the level of biotin-labeled APP in SHswe cells was much lower than that in SHwt cells. In particular, mature, post-translationally modified APP was only minimally biotinylated in SHswe cells, suggesting that mature APPswe ready for processing by proteases is almost entirely cleaved by BACE1 before it appears on the cell surface.

Second, to demonstrate that most APPswe is neither exposed to the cell surface nor internalized by endocytosis, we conducted an immuno-uptake assay. APP on the SHwt and SHswe cell surfaces was labeled with the anti-APP antibody 6E10 and traced during its uptake by endocytosis. Although antibody 6E10 recognizes βCTF in addition to APP, the amount of βCTF was so much lower than that of APP (Fig. 5*A*) that we concluded that the observed 6E10 immunoreactivity was attributable to APP. As shown in Fig. 5*B*, the surfaces of SHwt cells, but not of SHswe cells, were substantially stained with 6E10. After a 15-min incubation at 37 °C to promote endocytosis, APP-bound 6E10 produced a fine granular staining pattern in SHwt cells but not in SHswe cells (Fig. 5*C*). In contrast, the anti-APP antibody AB5352 yielded comparable staining of total APP in SHwt and SHswe cells (Fig. 5, *B* and *C*, *right panels*). Taken together, these results indicate that APPswe does not reach the plasma membrane and is not endocytosed, unlike APPwt, suggesting that APPswe is mostly β-cleaved before it reaches the plasma membrane, whereas APPwt is β-cleaved after it reaches the plasma membrane.

BSI Equally Inhibits the Processing of APPwt and APPswe in a Cell-free Assay—Finally, we evaluated whether the subcellular compartment in which APP processing occurs influences the potency of BSI. Although APPwt is predominantly cleaved in early endosomes by BACE1 (32), the processing of APPswe occurs within the secretory pathway (33). Therefore, we investigated whether the distinct subcellular localization of β-cleavage leads to differences in the APPwt and APPswe processing

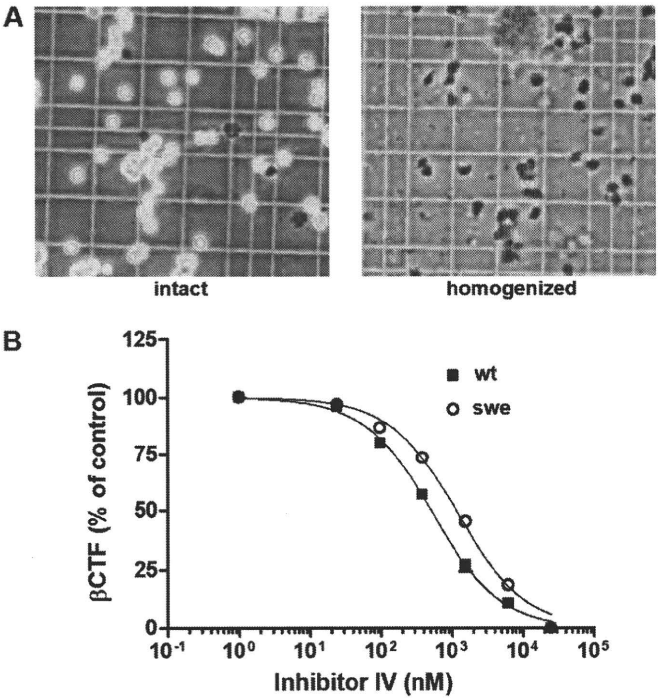


FIGURE 6. **In a cell-free assay with disrupted subcellular compartmentalization, BSI inhibits the processing of APPswe as effectively as APPwt.** *A*, intact or homogenized cells were suspended in phosphate-buffered saline containing 10% trypan blue and visualized under a microscope at 40× magnification. *B*, cells homogenized as in *A* were treated with Inhibitor IV at the indicated concentrations for 1 h at 25 °C, and the membranes were disrupted with 1% Triton X-100 to solubilize membrane-anchored βCTF. βCTF levels were determined using an ELISA; the βCTF quantification data are expressed relative to those for DMSO-treated control cell lysates (defined as 100%). The IC_{50} values for APPwt and APPswe are 514 and 1158 nM, respectively.

inhibition by BSI. In our cell-free assay, cellular compartments were thoroughly disrupted by homogenization, osmotic shock, and a freeze-thaw process (Fig. 6*A*). The resulting lysates were prepared in detergent-free lysis buffer to maintain protein conformations and protein-protein interactions. The SHwt and SHswe cell lysates were incubated in reaction buffer containing various concentrations of Inhibitor IV, and the percentage of inhibition by BSI relative to the DMSO control was plotted (Fig. 6*B*). Under these conditions, the IC_{50} values for APPswe and APPwt processing were comparable, suggesting that cellular partitioning is involved in the BSI potency decrease caused by the Swedish mutation.

In a Cell-based Assay, the Y687A Mutation Suppresses the Negative Effect of the Swedish Mutation on the Potency of BSI—The results of our cell-free assay suggested that the inhibitory potency of BSI depends on the subcellular location of APP β-cleavage. We therefore expected that restricting the subcellular site of β-cleavage would abolish the influence of the Swedish mutation on BSI potency. The trafficking and metabolism of APP is known to be regulated by its C-terminal region, which has the amino acid sequence YENPTY (34–38). Phosphoryla-

FIGURE 5. **The Swedish type APP is not exposed to the plasma membrane, whereas wild type is.** *A*, SHwt and SHswe cell surfaces were biotinylated for 1 h at 4 °C, conditions under which no endocytosis occurs. The biotinylated cell surface APP was precipitated with streptavidin-coated beads, and the precipitated and total APP were subjected to Western blot analysis with anti-APP antibody 6E10. *Black arrowheads* indicate mature APP; *white arrowheads* indicate immature APP. βCTF was barely detectable in the SHswe lysate lane. *B*, APP on the surface of SHwt and SHswe cells was labeled with antibody 6E10 for 45 min at 4 °C. After washing, the cells were immediately fixed with 4% paraformaldehyde. *Scale bar*, 10 μm. *C*, same as *B*, except that the washed cells were incubated for 15 min at 37 °C before fixing with 4% paraformaldehyde. *Scale bar*, 10 μm. *IB*, immunoblot.

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

tion of the tyrosine residue at position 687 in the C-terminal domain is essential for the localization of APP on the plasma membrane. In fact, the Y687A mutation of APP695 dramatically reduces the amount of APP on the cell surface (38). Furthermore, although the Y687A and wild type peptides are cleaved equally well by the purified α-secretase TACE in a cell-free assay, Y687A is poorly processed by cell surface α-secretase in a cell-based assay (38). Thus, full-length Y687A APP does not reach the plasma membrane and is strictly confined to the secretory vesicles even after its maturation in the Golgi apparatus. On the other hand, another study reported that the amount of secreted Aβ was unaffected by the Y687A mutation (36), indicating that, unlike the nonamyloidogenic α-secretase-dependent cleavage of APP, the amyloidogenic cleavage of APP by β- and γ-secretases could occur without reaching the cell surface.

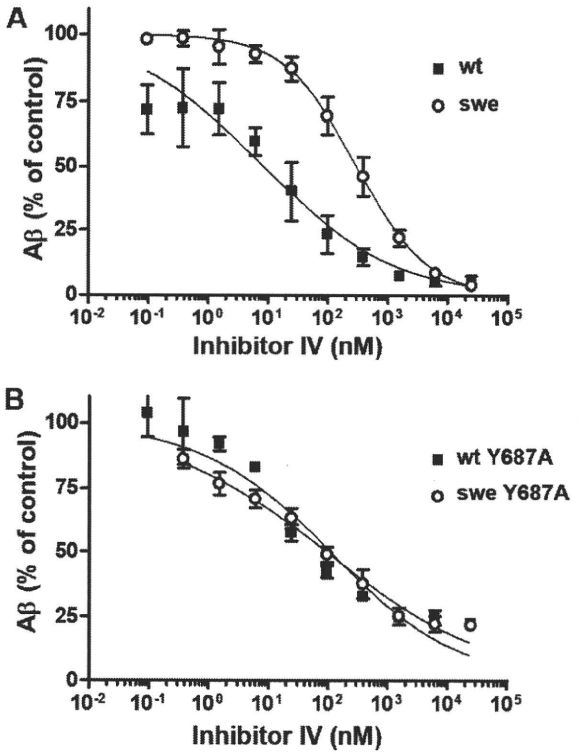


FIGURE 7. **BSI inhibits Aβ production in SH-SY5Y cells expressing the Y687A mutants of APPswe (APPswe$_{Y687A}$) and APPwt (APP$_{Y687A}$) with equal potency.** *A*, SHwt (■) and SHswe cells (○) were treated with Inhibitor IV at the indicated concentrations for 24 h, and the amount of Aβ in the conditioned medium was measured using an Aβ$_{1-x}$ ELISA. Aβ$_{1-x}$ quantification data are expressed relative to those for DMSO-treated control cultures (defined as 100%). The IC$_{50}$ values for SHwt and SHswe are 19 and 298 nM, respectively. *B*, same as *A*, except that experiment was performed using SH-SY5Y cells stably expressing APP$_{Y687A}$ (■) or APPswe$_{Y687A}$ mutants (○). The IC$_{50}$ values for APP$_{Y687A}$ and APPswe$_{Y687A}$ are 103 and 93 nM, respectively.

Hence, to clarify the mechanism by which the site of β-cleavage influences BSI potency, we inserted the Y687A mutation into APPwt and APPswe and analyzed the effect of Inhibitor IV on Aβ production in SH-SY5Y cells stably expressing these mutated proteins (APP$_{Y687A}$ and APPswe$_{Y687A}$, respectively). Aβ production curves were produced by plotting the relative amount of Aβ$_{1-x}$ at each dose of Inhibitor IV. As shown in Fig. 7*B*, the curves for APPswe$_{Y687A}$ and APP$_{Y687A}$ were nearly identical, whereas the fitted curve for APPswe was shifted to the right relative to that for APPwt (Fig. 7*A*). Thus, the ability of Inhibitor IV to prevent β-cleavage of Y687A-containing APP was independent of the β-cleavage site sequence, wild or Swedish type, supporting the hypothesis that the decreased effectiveness of BSI against APPswe cleavage is a result of differences in the subcellular sites of β-cleavage in APPwt- and APPswe-expressing cells.

DISCUSSION

Inhibition of β-secretase activity is the most promising strategy for modifying the course of AD, and many companies have long been attempting to develop BSIs for this purpose. To develop medicines with sufficient clinical efficacy, the preclinical data must allow accurate prediction of the clinically effective dose. Therefore, it is important to determine which of the model systems (wild type or Tg2576 mice) more accurately reflects AD patients in terms of the Aβ-lowering effectiveness of BSI and to elucidate the mechanism by which the Swedish mutation weakens the inhibitory potency of BSI.

We first attempted to recreate the BSI potency-decreasing effect of the Swedish mutant *in vitro* using purified BACE1 and substrates but were unable to adequately mimic cellular conditions. We then redirected our focus to a search for cellular conditions that would abolish the potency-decreasing effect of the Swedish mutant, *i.e.* we created a cell-based assay that was closer to *in vitro* conditions. By examining the ability of BSIs to reduce Aβ secretion from cells with no βCTF accumulation and their ability to inhibit the generation of βCTF, we unambiguously

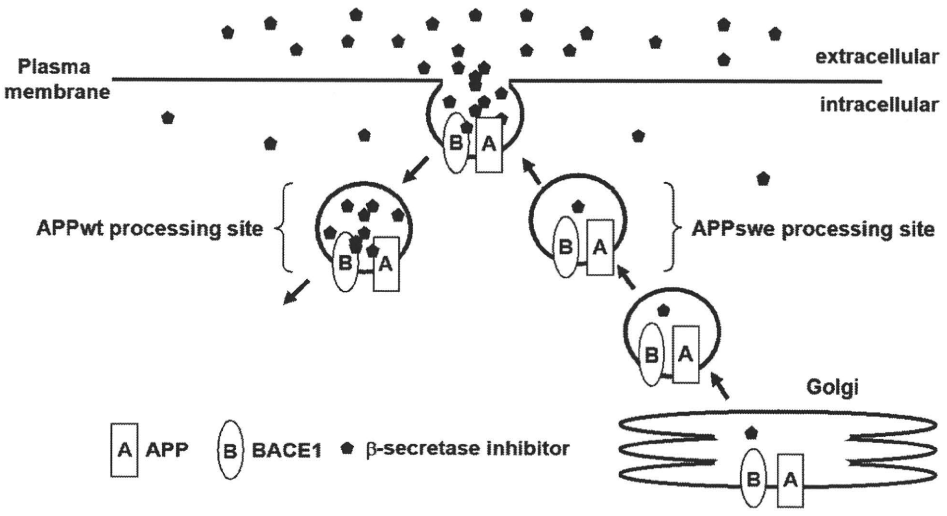


FIGURE 8. **Schematic diagram of the proposed model for increased BSI concentrations in early endosomes.** BSIs added to the medium are taken up by endocytosis and diffuse into compartments at various rates depending on their physical properties (such as cell permeability). Compounds bound to or adjacent to BACE1 on the cell surface are efficiently taken up into early endosomes, so that BSIs may be at higher concentrations in early endosomes than in secretory vesicles.

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

determined that βCTF accumulation does not underlie the potency-decreasing effect of the Swedish mutant, despite previous assertions to the contrary (22). Data from perturbation and alteration of the subcellular APP processing site suggest that the BSI potency decrease is, instead, a result of the anomalous subcellular localization of APPswe β-cleavage.

Why is the efficacy of BSI reduced by this change in the subcellular site of β-cleavage? Our findings give rise to two different speculations. First, the location of β-cleavage of APPswe might be generally difficult for chemicals to reach, probably because the place must be usually protected from exogenous enemies for cell survival. In fact, certain anti-cancer agents accumulate in certain organelles, thereby reducing their potency (39, 40), and Rajendran *et al.* (41) recently demonstrated that efficient targeting of BSI to the β-cleavage site can dramatically improve its inhibitory power against cellular Aβ production. These findings clearly indicate that drugs do not always spread into a cell uniformly and that their distribution patterns greatly influence their efficacies. Therefore, the notion that the BSI potency decrease is caused by a greatly decreased concentration of inhibitors at the subcellular site of APPswe β-cleavage is very reasonable. On the other hand, if this idea is indeed correct, then the potency decrease linked to the Swedish mutation would appear to be compound-specific rather than an example of a general phenomenon, considering that the distribution patterns of exogenous compounds are determined by particular physical characteristics. However, other groups have observed Swedish mutation-linked decreases in the potencies of several BSI series in cell-based assays (22, 24, 27). Moreover, we have confirmed that, in addition to Inhibitor IV, some compounds described in patents also exhibit the BSI potency decrease and that this decrease is abolished by the Y687A mutation (data not shown). These data suggest that most BSIs are distributed similarly in cells, probably because compounds with high affinities for the BACE1 active site share some physical properties.

A second, simpler explanation is that β-cleavage of APPswe occurs before it reaches the plasma membrane (31, 33), whereas APPwt is processed in an early endosome originating at the cell surface (32, 36). Both BACE1 and APP are transported from the Golgi apparatus to the plasma membrane and then to endosomes. The active site of BACE1 on the plasma membrane is exposed and more easily accessible to inhibitors than that of intracellular BACE1. BACE1 that cleaves APPwt is sometimes bound to BSI on the cell surface prior to APP processing, but the enzyme that processes APPswe is not. For either (or both) of the reasons described above (Fig. 8), the aberrant localization of APPswe processing may lower the potency of BSIs.

This work is important for the accurate estimation of clinically effective doses of BSIs. According to our results, the Aβ-lowering potency of BSI in sporadic AD patients may be better modeled by the wild type mouse than by the Tg2576 mouse. Almost all AD patients express wild type APP, suggesting that β-cleavage takes place during endocytosis, as in wild type mice. However, we cannot rule out the possibility that the location of APP processing is aberrant in sporadic AD patients, although no direct evidence supports this hypothesis. It has been reported that the trafficking and metabolism of APP are affected by the phosphorylation of its C terminus and by its interaction with X11, Fe65, LRP1, and others (10, 34, 42–47). Moreover, phosphorylation of APP has been observed in postmortem human brains (48). However, the pathophysiological role of APP phosphorylation remains controversial (49). In the near future, clinical data for BSI efficacy in AD patients, in combination with the results of this study, will enable us to infer the precise subcellular site of APP processing.

Acknowledgments—We thank all of the members of the Pain & Neurology Laboratory, particularly Dr. A. Kato, Dr. G. Sakaguchi, Dr. H. Ito, K. Nishitomi, A. Mikami, I. Nanchi, and M. Hosono (Shionogi & Co., Ltd.) for helpful discussions and technical suggestions.

REFERENCES

1. Selkoe, D. J., Bell, D. S., Podlisny, M. B., Price, D. L., and Cork, L. C. (1987) *Science* **235,** 873–877
2. Walsh, D. M., Klyubin, I., Fadeeva, J. V., Cullen, W. K., Anwyl, R., Wolfe, M. S., Rowan, M. J., and Selkoe, D. J. (2002) *Nature* **416,** 535–539
3. Klyubin, I., Walsh, D. M., Lemere, C. A., Cullen, W. K., Shankar, G. M., Betts, V., Spooner, E. T., Jiang, L., Anwyl, R., Selkoe, D. J., and Rowan, M. J. (2005) *Nat. Med.* **11,** 556–561
4. Shankar, G. M., Li, S., Mehta, T. H., Garcia-Munoz, A., Shepardson, N. E., Smith, I., Brett, F. M., Farrell, M. A., Rowan, M. J., Lemere, C. A., Regan, C. M., Walsh, D. M., Sabatini, B. L., and Selkoe, D. J. (2008) *Nat. Med.* **14,** 837–842
5. Yang, L. B., Lindholm, K., Yan, R., Citron, M., Xia, W., Yang, X. L., Beach, T., Sue, L., Wong, P., Price, D., Li, R., and Shen, Y. (2003) *Nat. Med.* **9,** 3–4
6. He, W., Lu, Y., Qahwash, I., Hu, X. Y., Chang, A., and Yan, R. (2004) *Nat. Med.* **10,** 959–965
7. Dodson, S. E., Gearing, M., Lippa, C. F., Montine, T. J., Levey, A. I., and Lah, J. J. (2006) *J. Neuropathol. Exp. Neurol.* **65,** 866–872
8. Harada, H., Tamaoka, A., Ishii, K., Shoji, S., Kametaka, S., Kametani, F., Saito, Y., and Murayama, S. (2006) *Neurosci. Res.* **54,** 24–29
9. Majercak, J., Ray, W. J., Espeseth, A., Simon, A., Shi, X. P., Wolffe, C., Getty, K., Marine, S., Stec, E., Ferrer, M., Strulovici, B., Bartz, S., Gates, A., Xu, M., Huang, Q., Ma, L., Shughrue, P., Burchard, J., Colussi, D., Pietrak, B., Kahana, J., Beher, D., Rosahl, T., Shearman, M., Hazuda, D., Sachs, A. B., Koblan, K. S., Seabrook, G. R., and Stone, D. J. (2006) *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.* **103,** 17967–17972
10. Ma, Q. L., Galasko, D. R., Ringman, J. M., Vinters, H. V., Edland, S. D., Pomakian, J., Ubeda, O. J., Rosario, E. R., Teter, B., Frautschy, S. A., and Cole, G. M. (2009) *Arch Neurol.* **66,** 448–457
11. Zhiyou, C., Yong, Y., Shanquan, S., Jun, Z., Liangguo, H., Ling, Y., and Jieying, L. (2009) *Neurochem. Res.* **34,** 1226–1235
12. Nishitomi, K., Sakaguchi, G., Horikoshi, Y., Gray, A. J., Maeda, M., Hirata-Fukae, C., Becker, A. G., Hosono, M., Sakaguchi, I., Minami, S. S., Nakajima, Y., Li, H. F., Takeyama, C., Kihara, T., Ota, A., Wong, P. C., Aisen, P. S., Kato, A., Kinoshita, N., and Matsuoka, Y. (2006) *J. Neurochem.* **99,** 1555–1563
13. Meredith, J. E., Jr., Thompson, L. A., Toyn, J. H., Marcin, L., Barten, D. M., Marcinkeviciene, J., Kopcho, L., Kim, Y., Lin, A., Guss, V., Burton, C., Iben, L., Polson, C., Cantone, J., Ford, M., Drexler, D., Fiedler, T., Lentz, K. A., Grace, J. E., Jr., Kolb, J., Corsa, J., Pierdomenico, M., Jones, K., Olson, R. E., Macor, J. E., and Albright, C. F. (2008) *J. Pharmacol. Exp. Ther.* **326,** 502–513
14. Sankaranarayanan, S., Price, E. A., Wu, G., Crouthamel, M. C., Shi, X. P., Tugusheva, K., Tyler, K. X., Kahana, J., Ellis, J., Jin, L., Steele, T., Stachel, S., Coburn, C., and Simon, A. J. (2008) *J. Pharmacol. Exp. Ther.* **324,** 957–969
15. Sankaranarayanan, S., Holahan, M. A., Colussi, D., Crouthamel, M. C., Devanarayan, V., Ellis, J., Espeseth, A., Gates, A. T., Graham, S. L., Gregro, A. R., Hazuda, D., Hochman, J. H., Holloway, K., Jin, L., Kahana, J., Lai, M. T., Lineberger, J., McGaughey, G., Moore, K. P., Nantermet, P., Pietrak, B., Price, E. A., Rajapakse, H., Stauffer, S., Steinbeiser, M. A., Seabrook, G., Selnick, H. G., Shi, X. P., Stanton, M. G., Swestock, J., Tugusheva, K., Tyler,

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011

K. X., Vacca, J. P., Wong, J., Wu, G., Xu, M., Cook, J. J., and Simon, A. J. (2009) *J. Pharmacol. Exp. Ther.* **328,** 131–140
16. Asai, M., Hattori, C., Iwata, N., Saido, T. C., Sasagawa, N., Szabó, B., Hashimoto, Y., Maruyama, K., Tanuma, S., Kiso, Y., and Ishiura, S. (2006) *J. Neurochem.* **96,** 533–540
17. Sinha, S., Anderson, J. P., Barbour, R., Basi, G. S., Caccavello, R., Davis, D., Doan, M., Dovey, H. F., Frigon, N., Hong, J., Jacobson-Croak, K., Jewett, N., Keim, P., Knops, J., Lieberburg, I., Power, M., Tan, H., Tatsuno, G., Tung, J., Schenk, D., Seubert, P., Suomensaari, S. M., Wang, S., Walker, D., Zhao, J., McConlogue, L., and John, V. (1999) *Nature* **402,** 537–540
18. Vassar, R., Bennett, B. D., Babu-Khan, S., Kahn, S., Mendiaz, E. A., Denis, P., Teplow, D. B., Ross, S., Amarante, P., Loeloff, R., Luo, Y., Fisher, S., Fuller, J., Edenson, S., Lile, J., Jarosinski, M. A., Biere, A. L., Curran, E., Burgess, T., Louis, J. C., Collins, F., Treanor, J., Rogers, G., and Citron, M. (1999) *Science* **286,** 735–741
19. Ohno, M., Sametsky, E. A., Younkin, L. H., Oakley, H., Younkin, S. G., Citron, M., Vassar, R., and Disterhoft, J. F. (2004) *Neuron* **41,** 27–33
20. McConlogue, L., Buttini, M., Anderson, J. P., Brigham, E. F., Chen, K. S., Freedman, S. B., Games, D., Johnson-Wood, K., Lee, M., Zeller, M., Liu, W., Motter, R., and Sinha, S. (2007) *J. Biol. Chem.* **282,** 26326–26334
21. Ohno, M., Cole, S. L., Yasvoina, M., Zhao, J., Citron, M., Berry, R., Disterhoft, J. F., and Vassar, R. (2007) *Neurobiol. Dis.* **26,** 134–145
22. Riddell, D., Atchison, K., Yu, D., Turner, J., Wang, E., Gonzales, C., Warwick, H., Kim, J., Malamas, M., Wagner, E., Aschmies, S., Albinson, K., Erdel, J., Gunawan, I., Revilla-Sanchez, R., Takano, K., Warren, N., Fang, K., Bard, J., Hirst, W., Pangalos, M., Moss, S., Haydon, P., Robichaud, A., and Reinhart, P. (2009) in *International Conference on Alzheimer's Disease,* Vienna, Austria on July 15, 2009
23. Shitaka, Y., Yarimizu, J., Nagakura, A., Mitani, Y., TAkami, S., Miyake, A., Hamakawa, N., Hey, J., Koelsch, G., Bilcer, G., and Matsuoka, N. (2008) in *International Conference on Alzheimer's Disease,* Chicago, IL on July 28, 2008
24. Malamas, M., Erdei, J., Gunawan, I., Robichaud, A., Turner, J., Hu, Y., Wagner, E., Aschmies, S., Comery, T., and Fan, K. (2008) in *International Conference on Alzheimer's Disease,* Chicago, IL on July 28, 2008, **4,** 515–515
25. Hsiao, K., Chapman, P., Nilsen, S., Eckman, C., Harigaya, Y., Younkin, S., Yang, F., and Cole, G. (1996) *Science* **274,** 99–102
26. Citron, M., Oltersdorf, T., Haass, C., McConlogue, L., Hung, A. Y., Seubert, P., Vigo-Pelfrey, C., Lieberburg, I., and Selkoe, D. J. (1992) *Nature* **360,** 672–674
27. Hussain, I., Hawkins, J., Harrison, D., Hille, C., Wayne, G., Cutler, L., Buck, T., Walter, D., Demont, E., Howes, C., Naylor, A., Jeffrey, P., Gonzalez, M. I., Dingwall, C., Michel, A., Redshaw, S., and Davis, J. B. (2007) *J. Neurochem.* **100,** 802–809
28. Hong, L., Koelsch, G., Lin, X., Wu, S., Terzyan, S., Ghosh, A. K., Zhang, X. C., and Tang, J. (2000) *Science* **290,** 150–153
29. Pietrak, B. L., Crouthamel, M. C., Tugusheva, K., Lineberger, J. E., Xu, M., DiMuzio, J. M., Steele, T., Espeseth, A. S., Stachel, S. J., Coburn, C. A., Graham, S. L., Vacca, J. P., Shi, X. P., Simon, A. J., Hazuda, D. J., and Lai, M. T. (2005) *Anal. Biochem.* **342,** 144–151
30. Stachel, S. J., Coburn, C. A., Rush, D., Jones, K. L., Zhu, H., Rajapakse, H., Graham, S. L., Simon, A., Katharine Holloway, M., Allison, T. J., Munshi, S. K., Espeseth, A. S., Zuck, P., Colussi, D., Wolfe, A., Pietrak, B. L., Lai, M. T., and Vacca, J. P. (2009) *Bioorg Med. Chem. Lett.* **19,** 2977–2980
31. Thinakaran, G., Teplow, D. B., Siman, R., Greenberg, B., and Sisodia, S. S. (1996) *J. Biol. Chem.* **271,** 9390–9397
32. Koo, E. H., and Squazzo, S. L. (1994) *J. Biol. Chem.* **269,** 17386–17389
33. Haass, C., Lemere, C. A., Capell, A., Citron, M., Seubert, P., Schenk, D., Lannfelt, L., and Selkoe, D. J. (1995) *Nat. Med.* **1,** 1291–1296
34. King, G. D., Perez, R. G., Steinhilb, M. L., Gaut, J. R., and Turner, R. S. (2003) *Neuroscience* **120,** 143–154
35. Ono, Y., Kinouchi, T., Sorimachi, H., Ishiura, S., and Suzuki, K. (1997) *J. Biochem.* **121,** 585–590
36. Perez, R. G., Soriano, S., Hayes, J. D., Ostaszewski, B., Xia, W., Selkoe, D. J., Chen, X., Stokin, G. B., and Koo, E. H. (1999) *J. Biol. Chem.* **274,** 18851–18856
37. Steinhilb, M. L., Turner, R. S., and Gaut, J. R. (2002) *J. Neurochem.* **80,** 1019–1028
38. Takahashi, K., Niidome, T., Akaike, A., Kihara, T., and Sugimoto, H. (2008) *Biochem. Biophys. Res. Commun.* **377,** 544–549
39. Lee, C. M., and Tannock, I. F. (2006) *Br J. Cancer* **94,** 863–869
40. Simon, S. M., and Schindler, M. (1994) *Proc. Natl. Acad. Sci. U.S.A.* **91,** 3497–3504
41. Rajendran, L., Schneider, A., Schlechtingen, G., Weidlich, S., Ries, J., Braxmeier, T., Schwille, P., Schulz, J. B., Schroeder, C., Simons, M., Jennings, G., Knölker, H. J., and Simons, K. (2008) *Science* **320,** 520–523
42. Yoon, I. S., Pietrzik, C. U., Kang, D. E., and Koo, E. H. (2005) *J. Biol. Chem.* **280,** 20140–20147
43. Cam, J. A., and Bu, G. (2006) *Mol. Neurodegener.* **1,** 8
44. Spoelgen, R., von Arnim, C. A., Thomas, A. V., Peltan, I. D., Koker, M., Deng, A., Irizarry, M. C., Andersen, O. M., Willnow, T. E., and Hyman, B. T. (2006) *J. Neurosci.* **26,** 418–428
45. Schmidt, V., Sporbert, A., Rohe, M., Reimer, T., Rehm, A., Andersen, O. M., and Willnow, T. E. (2007) *J. Biol. Chem.* **282,** 32956–32964
46. Marzolo, M. P., and Bu, G. (2009) *Semin Cell Dev. Biol.* **20,** 191–200
47. Borg, J. P., Ooi, J., Levy, E., and Margolis, B. (1996) *Mol. Cell. Biol.* **16,** 6229–6241
48. Lee, M. S., Kao, S. C., Lemere, C. A., Xia, W., Tseng, H. C., Zhou, Y., Neve, R., Ahlijanian, M. K., and Tsai, L. H. (2003) *J. Cell Biol.* **163,** 83–95
49. Sano, Y., Nakaya, T., Pedrini, S., Takeda, S., Iijima-Ando, K., Iijima, K., Mathews, P. M., Itohara, S., Gandy, S., and Suzuki, T. (2006) *PLoS One* **1,** e51

Downloaded from www.jbc.org at TOHOKU UNIVERSITY, on April 12, 2011